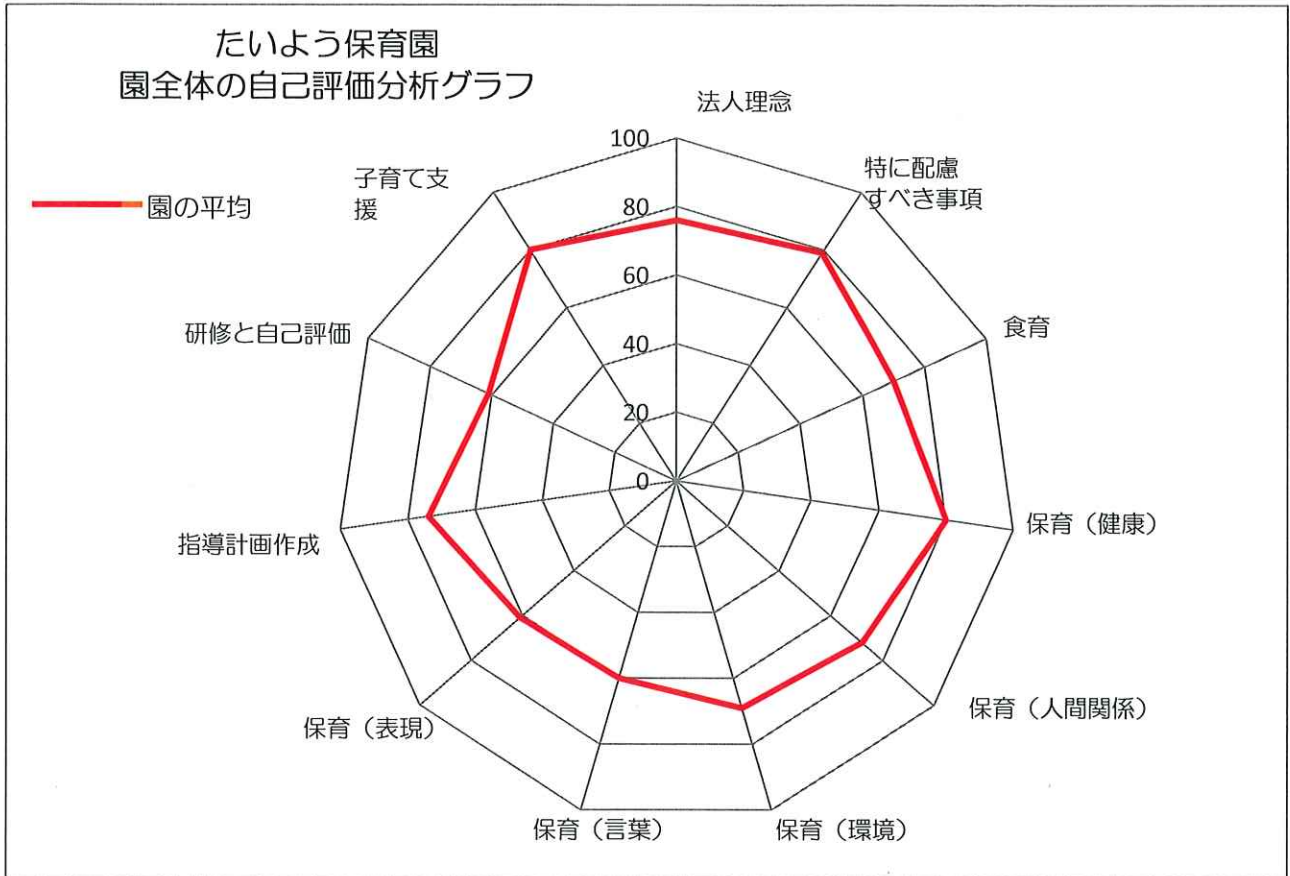


実施日 令和5年3月



このグラフから、園全体の課題や特色を見つけ自己評価に活用しています。

	項目	平均
1	法人理念と保育理念	76
2	特に配慮すべき事項	79
3	食育	70
4	保育（健康）	80
5	保育（人間関係）	72
6	保育（環境）	69
7	保育（言葉）	60
8	保育（表現）	61
9	指導計画作成	74
10	研修と自己評価	61
11	子育て支援	80
	平均	71%

評価項目	達成度 (%) 前回⇒今回	課題に向けて
法人理念と保育理念	82⇒76	<p>「子どもが要求することはすぐに答えられるように努めているが、すぐに対応できないときは、0歳児であっても、理由を言って「待っててね」と声掛けしている。」「子どもが望む限り何度でも絵本を読んであげるようにしている」「母子分離が難しく泣いている子どもの要求に応え、抱っこで優しく語りかけたり歌を歌ったりしている」「食事の介助をするとき、手伝ってもいい？と子どもに尋ねるようにしている」「一人の人間として対等な立場で関わっている。」「子どもの気持ちに寄り添い共感することを心掛けている」「子どものもっとやりたい！等の思いを尊重してあげたい」保育理念、保育目標を意識しながら子どもに向き合う保育者の姿がある。半面、保育者に余裕がなく、時間に追われ、子どもの声に気づいてあげられないこともある。日々の暮らしの積み重ねが、保育目標（心ゆたかに、体たくましく、頭かしこく）へと繋がっていくイメージを持って保育することを意識したい。</p>
特に配慮すべき事項	79⇒79	<p>「朝の挨拶をするときは、ボディータッチをしたり、ハグをしたりしてスキンシップをとっている」「子どもの家庭環境で気になることや子どもや保護者の様子から今、必要な関わりを判断している」「子どもの年齢で関わり方を変えるのではなく、一人一人の発達を考慮した関わりを意識している」「クラスの子ども全員と関わるようにしている」「子どもに注意が必要なときは、ポジティブな声かけで背中を押すよう心掛けている」「子どもに注意するときは、言葉を手渡せる距離を意識している」「保育者にゆとりがないときは、大きな声で子どもの名前を呼んでしまうことがある」「子どもとじっくり遊びたいがかみつみや怪我の防止に追われている。」「延長保育の時間は子どもの好みを配慮して遊びを提案している」保育園は幼い子どもが長時間集団で過ごす場所であることを意識し、保育者は一人一人の子どもが一日を気持ちよく過ごすことができるよう配慮が必要である。子どもにとって早く行きたい場所、早く会いたい人がいる場所でありたい。</p>

<p>食育</p>	<p>73⇒70</p>	<p>「苦手なメニューで苦戦している子もお友達や保育者が見守る中、温かい雰囲気の中で食べることができるよう配慮した」「作ってくれた人への感謝の気持ちを言葉で表現し伝えるように意識した」「食事のマナーについて視覚的な方法を利用し伝えていきたい」「誕生会など、特別な日にはお花を飾ったり、クロスをかけたりにして食事を楽しみたいと思う」「食事や片付けがスムーズにできるよう他クラス保育者の提案を参考に環境構成を変えてみた」「2月、桜の花びらを花手水でテーブルに飾ると、「きれい」「さくらの花?」「ピンクのお花だ」等子どもからたくさんの言葉を聞くことができた」「0歳児は1対1で担当が食事のお世話をしているので、離乳食の進み具合、嚥下の状態等を把握することができる」「お米1粒を作るにも長い月日がかかることを栽培活動を通して伝えるようにしている」「子どもが落ち着かない日は、ゆったりとした音楽を流し、雰囲気を変えて様子を見ている。」日々、食している食べ物で体が作られていくことを念頭に置き、子どもに提供する食事に関して、月に1回の給食会議で議論し、子どもの食の進み具合や、喜んで食べてくれるメニューの開発に繋げている。日頃から栄養士、調理員と連携を取りながら、食事を楽しみにする子どもを育ていきたい。アレルギーの卵を使用しない食事について、保護者の協力を得ながら、今後も続けていきたい。</p>
<p>保育（健康）</p>	<p>77⇒80</p>	<p>「子どもたちが気持ちよく過ごせるよう、部屋の温度、湿度をチェックし部屋環境を整えている」「視診の時間を設け、視診の習慣化を図り実践している」「子どもの体の傷に気づかず降園させてしまったことがあり、登降園時の視診を「感染症が気になるので常に換気を心掛けている」「保護者に協力してもらい、かかりつけ医に朝夕の処方をお願いしてもらうことで、与薬の人数が少なくなり、安心して過ごすことができている」「子どもの発達段階に合わせ、遊具や玩具の環境構成をした」「粗大活動ができるよう大きい園庭を利用するよう心掛けた」「子どもが全身を使って遊べるわくわくするような遊び環境を作っていきたい」「嘔吐物の処理方法について手順を再確認する」「一日に1時間は、園庭で、身体を十分に動かすことができるよう意識して保育した」子どもの生命と心の安定が</p>

		<p>保たれ健やかな生活が保障されることは、日々の保育の基本である。そのためには、一人一人の子ども健康状態や発育、発達の状態に応じ保育していくことを大切にしたい。</p>
保育（人間関係）	69⇒72	<p>「友達対しいけないことをしてしまった場合、謝りの言葉を促すのではなく相手の気持ちや痛さを代弁するよう声掛けしている」「父母に対する畏敬の念を言葉にして子どもに伝えるように意識している」「きょうだいの育ち合いを大切に考え、クラスを超えて保育をすることもある」「あいさつは慣れ親しんでいる間柄こそ必要な言葉の掛け合いだと感じているので、保護者、子ども、保育者、地域の方に積極的にあいさつを心掛けている」「子どもが保育者の出勤を喜びの表情で迎えてくれる。乳幼児期に育まなければならない、愛着、信頼関係の構築を意識して関わっていききたい」</p> <p>「褒めたり、励ましたりしながら子どもが主体的に行動できるよう促している」「子ども同士で解決できそうな場面では子ども自身の言葉でやり取りができるよう見守っている」「子どもにとって嬉しい存在でありたいと願い関わっている。子どもにとって喜怒哀楽を共有したいと思える存在でありたい」人との関わりの中で人格を形成していく子どもにとって、保育者が与える影響は大きい。保育者自身が心豊かに、周りの人を受け入れることができるのか自問自答しながら子どもと向き合いたい。</p>
保育（環境）	69⇒69	<p>「子どもの遊びはすべてが学びであると考え。子どもにとって学び、発見に繋がる環境になっていたか保育者としての課題である」「一日の終わりに、明日の保育が子どもにとって豊かなものになるよう整理整頓を心掛けた」「子どもの動線、保育者の動線を念頭に置き、環境構成するよう努めた」</p> <p>「戸外で草花や生き物を観察したり、子どもの指さしに言葉で答えたり、共感したりしている」「保育者自身が身近な自然現象に興味関心を持ち、子どもと関わる必要がある」保育者は子ども自らが環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことができる環境を意識して保育室、園庭環境を構成すると同時に子ども集団で過ごす長い一日を心地よく過ごすためにはゆったりとした物的環境と人的環境を意識していききたい。</p>

保育（言葉）	69⇒60	<p>「保育者の声のトーン、言葉選び、接し方を意識して子どもと向き合った」「午睡時に小さな声で素話をしたり、子どもを主人公にした物語を語ったりした」「どうしたの？」「そうなんだね」等、語尾が柔らかく優しく聞こえるような言葉を使おうと努力している」「できる限りいろんな絵本に出会ってほしいので、図書館で絵本を借りたり、子どもと一緒に図書館へでかけ、子どもの興味関心を確認するよう努めている」「子どもに対し、肯定的な声掛けができるよう心掛けているが、できないことも多々ある」言葉を獲得する大切な時期にある子どもと、長時間、生活を共にする保育者の役割は大きい。保育者との受容的で応答的な関わりのなかで子どもは、安心して自分が感じていること、思っていることを伝えようとするようになり、後に友達との言葉のやり取りに広がっていく。保育者が、子どもの言葉に心と耳を傾け、子どもの伝えたい気持ちを満たすことにより、子どもは相手の伝えたいという思いに心と耳を傾けることができるようになる。子ども、保護者、保育者の美しい言葉、心地よい言葉が行きかう園でありたい。</p>
保育（表現）	57⇒61	<p>「子どもはリトミックが大好きだ。ピアノの音に合わせ思い思いに身体表現する時間を大切にしている」「絵を描くこと、製作することが大好きな子どものために、いつでも自由に使えるようかんきょう構成するよう心掛けている」「子どもが好きな絵本から劇遊びに繋げ、遊びを通して、子どもが役になりきって演じる場を設けた」「ピアノの達人（保育者）による秋のピアノ演奏会を開催し最後は手作りカスタネットで子どもたちも参加した」「午睡の時間、一人一人の子どもが好きな子守歌を歌うようになってから、自然とどのクラスに入っても口ずさめるようになった」子どもは感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、創造性を豊かにする。表現活動は生活の中に多様にある。歌うこと、描くこと、踊ること、作ること、おしゃべりすること、演奏すること、話すこと等、保育者は、すべてが表現活動に繋がることを意識し、保育者自身も感性を磨くよう努力し、子どもの豊かな感性が育まれるよう保育していきたい。</p>
指導計画作成	75⇒74	<p>「一人一人の子どもの育んでいきたいことについて担任間で話し合い個別の指導計画を作成した」「子どもの姿を理解し日々の保育を通し作成する</p>

		<p>よう心掛けている」「PDCA サイクルを意識して指導計画を立てるようにした」「子どもの姿を写真をつけて振り返られるようにし、そこから見えてきた課題を意識して次の計画に反映させた。「週ごとに振り返り記録しているので、次週の課題も明確になり、子どもの姿がよく見えるようになった」「指導計画を立てるが、計画通りにいかないことも多々あった」「個々の成長や発達にあった遊び、または、興味関心が向けられている事象など、前月を振り返りながら立案することができた」子どもの発達過程を見通し、生活の連続性、発達の連続性、季節の変化などを考慮し、子どもの姿に即した具体的なねらい、内容を設定しなければならない。その中で子どもの生活する姿や発想を大切にしながら環境構成し、子どもが主体的に活動できるように配慮が必要である。子どもの豊かな育ちには保育者が保育を計画、実践、振り返り、改善していくこと（記録）が不可欠である。生きた指導計画になっているか再確認したい。</p>
<p>研修と自己評価</p>	<p>62⇒61</p>	<p>「お互いの気にしている所を話す機会があり、お互いで気づいたことをアドバイスする、アドバイスをもらうということがあり、ありがたかった」「子どものかかわり方で同僚に相談したり、意見をもらったりしながら保育ができた」「園内外で目に留まった研修は時間をいただいて参加するよう心掛けた」保育士の自己評価は、子どもの理解を基盤に保育を振り返り自分の保育の良さや課題を捉えて、次の保育に活かしていくために行っている。毎年、自己の課題を明確にすることはできているが、その改善が難しいところだと感じる。引き続き、園全体で課題改善に向けての仕組み作りが必要である。</p>
<p>子育て支援</p>	<p>79⇒80</p>	<p>「保護者が安心して相談ができる存在でありたい、保護者の話を聴くことを大事にしたいと思う」「慌ただしい日々を送っている保護者に気持ちのいい挨拶を心がけ、しっかり子どもを受け入れ安心して仕事に向かってほしいと思っている」「ほとんどの方が個人面談を希望してくれ、子育ての悩み、喜びを共有することができたことは子どもの育ちに大きな影響を与えると思う」「保護者が安心して子育ての悩みを相談できる存在になりたいと思っているが、難しさを感じることもある」「日々のコミュニケーションを大切に保護者との信頼関係を築い</p>

		<p>ていきたい」保護者からのご意見に対し、お互いの思いを伝え合い、お互いの立場になって考えてみる、子どものために、対話することは大切だと感じ取れる前向きな対話になるよう保護者と共に最適な解決を模索したい。保育園には保育園を利用している保護者に対する子育て支援以外に地域の保護者等に対する子育て支援の役割も担っている。コロナ禍もあり、難しいこともあるが、地域の子育て家庭へのアプローチも意識していきたい。</p>
--	--	--